



7月 町屋幼稚園だより

令和8年6月30日

荒川区立町屋幼稚園

園長 浪江 泰弘

小さな口からあふれる、大きな魔法

園長 浪江 泰弘

日増しに強くなる日差しに、夏の本格的な訪れを感じる季節となりました。

最近、子どもたちの会話を聞いていると、「ありがとう」「いっしょに遊ぼう」「大丈夫?」といった、優しい言葉がたくさん聞こえてくるようになり、胸が熱くなります。

言葉は、心と心をつなぐ「魔法の架け橋」です。まだたどたどしい言葉であっても、そこには子どもたちの純粋な感情やつながりたいという願いがぎゅっと詰まっています。そして同時に、言葉は時に刃物のように、誰かの心を傷つけてしまう力も持っています。だからこそ、幼児期に「どんな言葉を使って人と関わるか」は、これからの長い人生においてとても大切な土台となります。

幼稚園という小さな社会の中で、子どもたちは時にぶつかり合いながら、言葉で気持ちを伝える心地よさや、相手の言葉に耳を傾ける大切さを学んでいます。教職員一同、子どもたち一人ひとりの言葉にしっかりと耳を傾け、認める言葉がけを意識していきます。ご家庭でもぜひ、お子様が発する言葉の「その奥にある気持ち」に耳を傾けてみてください。そして、お父様やお母様の温かい言葉を、シャワーのようにたくさん浴びせてあげてほしいと思います。大好きな大人の優しい言葉に包まれて育った子どもは、きっと周りの人にも優しい言葉をプレゼントできる大人へと成長していくはずですよ。

《今月のねらい》

【年 長】○思ったことや感じたことを出し合いながら、友達と遊びを進めていく楽しさを感じる。

○夏に向かう季節の変化に気づき、自然に触れたり遊びに取り入れたりする。



つながっていく「遊び」と「学び」

町屋幼稚園と第七峡田小学校では「就学前教育と小学校教育の円滑な接続」を目指した取組に継続して取り組んでいます。幼稚園教諭と小学校教諭が互いの保育・授業を学び、つながりを意識することで、幼児・児童との関わりや指導に生かしています。今年度は園内研究のテーマを【環境に自らかかわり主体的に活動する幼児・児童の育成「遊び」と「学び」をつなぐ教師の援助や環境を探る～運動遊びを通して～】として、運動遊びを通して幼児が小学校児童や小学校教諭とも関わりながら遊びや活動楽しむ経験を重ねられるようにしています。1学期はいろいろな学年の小学校運動会の取組を見学し、刺激を受けました。「飛ぶ」「走る」「投げる」「登る」「くぐる」「引っ張る」…。園内研究会では講師の東海大学体育学部准教授知念嘉史先生から、遊びの中で楽しみながら多様な動きを経験することができるようにし、身体を動かす楽しさを味わうことが小学校以降の体育での学びや生涯に渡って運動を楽しむことの基盤となっていくとお話をいただきました。土曜参観では保護者の方と一緒に運動遊びを楽しみました。「遊び」と「学び」のつながりを探り、今後の保育実践に生かしていきます。



町屋幼稚園の歴史探訪 ③

昭和55年には年少児(現在の年中児)100名、年長児80名の最多園児数となった町屋幼稚園。水遊びは毎年、園庭一面にシートを敷きビニールプールを並べて遊んでいました。平成に入り組み立て式のプールが導入され、大きいプールに子どもたちは大喜びだったそうです。平成12年(2000年)には創立50周年を記念して、保護者・園児が作詞し現在まで歌い継がれている園歌「ともだちいっぱい」が生まれました。



昭和61年 園庭のビニールプールで遊ぶ園児の様子